

1. 調査報告概要表

作成日 平成 19 年 9 月 5 日

【評価実施概要】

事業所番号	1070900194		
法人名	社会福祉法人 山紫会		
事業所名	グループホーム 音和の家		
所在地	藤岡市藤岡2874-9	(電話) 0274-24-8810	
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5		
訪問調査日	平成19年8月30日		

【情報提供票より】(19年 7月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	13	年	5	月	1	日
ユニット数	1	ユニット	利用定員数計	9	人		
職員数	8	人	常勤	8	人,	非常勤	0
			常勤換算	7.8			

(2) 建物概要

建物構造	S造、鉄骨	造り
	2階建ての	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000	円	その他の経費(月額)	2,000	円
敷金	有()	円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()	円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
または1日当たり		900	円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	9	名	男性	1	名	女性	8	名
要介護1	2	名	要介護2	1	名			
要介護3	4	名	要介護4	2	名			
要介護5		名	要支援2		名			
年齢	平均	88.9	歳	最低	68	歳	最高	104

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立藤岡総合病院、星野医院、光病院、原歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

職員の声かけや態度は穏やかであり、利用者がゆったりと生活しているように見受けられた。基本的には2日に1回の入浴支援をしており、利用者個々の体調等により入浴出来なかった場合は、翌日にも入浴の希望に沿えるよう支援している。緑の多い静かな環境に立地しており、眺めの良い大きな窓やテラスからは、四季折々の風景を楽しむことができるであろうと思われた。畑では野菜づくりをしており、収穫した野菜は献立の食材として調理されていた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>理念の具体化及び職員間の共有については改善されていない。利用者、家族の思いや意見を引き出す工夫を日頃のかかわりの中で行っている。地域の人達との交流については運営推進会議の中で討議されており、地域行事への参加等検討中である。職員の異動等による影響への配慮、緊急時の応急手当の実践訓練については改善されていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者が作成し、職員全員では取り組んでいない。運営推進会議にて評価の意義について説明をした。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。会議ではホームから事故報告や評価の意義の説明を行い、地域との交流について(地域行事への参加、道普請への参加、たよりの近隣への回覧等)討議された。会議での要望を受け『音和の家だより』を近隣の人々に回覧している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問時には、困っていることや意見等よく聞くように努めている。苦情受付窓口、第三者委員を設け、文書で明示している。運営推進会議には家族や第三者委員にも出席してもらい、意見や要望等聞くように努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の人々には散歩の時に挨拶しており、取れた野菜等持ってきてくれる方もいる。自治会には加入しておらず、地域の一員として行事等や地域活動にもほとんど参加していない。運営推進会議において、地域との交流について話し合いを始めている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時からの理念を掲げており、地域との関係性を重視した地域密着型サービスとしての理念をつくりあげていない。	○	これまでの理念を見直し、「地域の中でその人らしく生活することを支えるケア」地域密着型サービスの役割を職員全員で考えながら、事業所独自の理念をつくりあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念を共に意識しながら話し合い、理念の実践に向けて日々取り組んでいない。	○	ミーティングや申し送り、係わりのふり返りの時にも、理念を思い起こし、何を大切に利用者に向き合うか、職員全員で話し合い、具体的なケアについて意見の統一を図っていかれるとよいのではないかと。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していない。地域の一員として行事等や地域活動にもほとんど参加していない。地域との交流については、運営推進会議において話し合いを始め、近隣の人々に『音和の家だより』を回覧板で回すようになった。	○	運営推進会議に出席されている地域住民の人々から、多くの意見や情報を受け、よく話し合い、利用者・職員がどのように地域の行事や地域活動へ参加していったらよいか、また地域の人々にも来訪してもらえるか等、職員全員で検討してほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組んでいない。また外部評価の結果を踏まえ、改善計画を立て、その実施に取り組んでいない。	○	評価は一連の過程を職員全員で取り組むことで、日常のケアのふり返りや見直し等が可能となり、サービスの質の確保・向上に活かしていけるので、全職員で取り組んでほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催しており、ホームからの報告や議題提案等を行い、出席者からの意見や要望を受け、話し合いを行っている。そこでの意見をサービス向上に活かしているよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者に出席してもらい、ホームの理解を深めてもらっているが、ホーム側からの積極的な働きかけは行っていない。	○	市の担当者に対して、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え、関係づくりを積極的に行い、市の担当者と共にサービスの質の向上に取り組んでほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の訪問時には、利用者の健康状態や暮らしぶりについて話をしている。毎月『音和の家だより』を発行し、個々の日常の様子を書きこみ、家族に送付している。家族と金銭管理の取り決めをしており、月1回その出納を明示している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口、第三者委員を設け、家族等が意見、苦情等を表わせるよう文書で明示している。運営推進会議に家族にも出席してもらい意見を聞いたり、家族の訪問時には困っていることや意見等の話をよく聞くように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者、職員の交代の際に、交代前後の利用者、家族への説明や対応の仕方等配慮がなされていない。	○	利用者、家族への信頼を築くためにも、馴染みの職員が対応することが重要であり、離職がやむを得ない場合も、利用者へのダメージを最少にするために、その時期や引き継ぎの面で最善の努力をしてほしい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や実践者研修、実践リーダー研修、グループホーム連絡協議会の研修、社会福祉協議会の研修等外部研修にも交代で参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しており、ブロック別の交換研修の受け入れを行った。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が職員や他の利用者、サービスの場に徐々に馴染みながら本格的な利用に移っていきけるような支援はしていない。	○	本人の安心と納得の確保がその後のスムーズな利用のために不可欠なので、家族等と十分に話し合いながら、本人が職員や他の利用者、サービスの場に徐々に馴染んでいけるよう、個別の利用開始の調整を行ってほしい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活場面や本人との会話の中から、職員が利用者に教えてもらうことも多く、共に支えあえる関係づくりに留意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、一人ひとりの言葉や行動、表情などから本人の思いや希望を把握するよう努めている。その情報を職員間で共有しながら、日々のケアに活かすようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族等には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き、介護計画に反映させるようにしている。ケース会議の中で職員が話し合い、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは6ヶ月に1度と状態の変化に応じて実施しているが、職員全員で評価を行うことや家族等との話し合いも十分ではない。	○	介護計画の遂行状況、効果などを評価するとともに、職員が記録する利用者の状態変化や状況、本人、家族等の要望に応じて、期間にとらわれず臨機応変に見直ししていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院介助等必要な支援に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の他、利用者の希望、疾患の内容によりそれぞれのかかりつけ医で受診をしている。家族と協力して通院介助を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、話し合いと対応方針の統一がなされていない。	○	本人、家族の意向、事業所が対応し得る最大の支援方法を踏まえて、できるだけ早い段階から本人や家族等、かかりつけ医等ケア関係者と繰り返し話し合い、重度化や終末期に向けた対応方針の共有を図っていかれるとよいのではないかと。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや対応に配慮しながら、やさしくさりげない介助をしている。記録等の個人情報の取り扱いに関しては、秘密保持の徹底を図るよう努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態や思いに配慮しながら、散歩や買い物、筋力トレーニング、レクリエーション等柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえやテーブル拭き等している利用者もいる。職員と利用者が同じテーブルを囲み、楽しく食事できるよう支援している。月1回のお好み食事会では誕生日の利用者の好みを聴きメニューを決め、準備から一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には1日置きに、夕刻に入浴している。当日入浴したくない人には翌日に回ってもらい、入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	縫い物や掃除、洗濯物を干す等得意分野で力を発揮してもらったり、読書や折り紙、書道や歌をうたう等楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣への散歩や買い物、季節の花見、外食ツアー等に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけずにタッチパネルを設置している。他の戸口も鍵をかけずに、利用者の安全を確保しながら自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急通報マニュアルが作成されており、消防署の協力を経て年2回利用者とともに避難訓練を行っている。災害協力員や地域住民の人々にも協力を得られるよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、栄養バランス、水分量など個人記録に記載し、職員は情報を共有しながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に観葉植物を置いたり、季節の花を飾っている。外気浴が楽しめる眺めの良いテラスには、テーブルやベンチ、椅子が設置されている。菜園で野菜を栽培しており、ベランダにもプランターを設置しミニトマトを栽培している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	夫の位牌や写真、書道の作品や掛け軸、縫いぐるみ、リネン類等部屋に持ち込まれ、一人ひとり落ち着いて過ごせる場所となっているように見受けられた。		